0025099001

0025099-001

３３４．４２－Ｔａ１６５ｉ

移植民ニ関スル調査書

台湾総督府熱帯産業調査会・編

台湾総督府殖産局農務課

1935

ADE

昭和十年九月

熱帶產業調查會調查書

移植民ニ關スル調查書

第一卷

臺灣總督府殖產局農務課

國立國會圖書館藏書
334.42
Ta165i
33950

總目次

第一章 第二章 第一節 第二節 第三節 第四節 第五節 第六節 第七節 第八節 第一項 第二項 第三項 第四項 第五項 第六項 第七項

各臺灣ノ移民 第一卷

內地ノ植民 第二卷

北海道ノ植民 第二卷

樺太ノ植民 第二卷

朝鮮ノ植民 第二卷

南洋ノ移民 第二卷

滿洲ノ移民 第二卷

南洋ノ移民 第二卷

比律賓 第三卷

英領馬來 第三卷

ヅラ領北ボルネオ 第三卷

蘭領印度 第四卷

佛領印度支那 第四卷

支那ノ移民 第四卷

目次

第一章　臺湾ノ移民
第一節　改隷當初ニ於ケル私營移民事業　四
第一項　移民事業ノ沿革　四
一目　源成農場　九
二目　韋顕榮農場　二一
三目　賀田組農場　一二

四目　竹一帯ニ外九名ノ南墾地移民　一三
五目　臺灣蚕業奨勵會移民　一四
六目　大日本製糖株式會社臺湾工場移民　一六
七目　塩水港製糖株式會社ノ手中蔡庄移民　一七
八目　南隆農場　一八
九目　臺湾製糖株式會社後壁林農場　一九
第二項　政府ノ移民事業ニ對スル助成　二五
第三項　移民事業ノ経過及現況　二五
第四項　移民事業ニ要シタル経費　二七
第二節　花蓮港廳下ニ於ケル官營移民事業　二八
第一項　官營移民事業ノ沿革　二八
一目　移住適地調査　二八
一、西部臺湾　三一
二、東部臺湾　三六

三、移民收容適地ノ決定　三九
二目　官營移民事業ノ機関　四七
一、移民事業委員會　四八
二、移民課　五四
三、移民指導所　五六
四、職員　五八
三目　移民事業實行案　六〇
一、移民實行案（明治四十三年十月決裁）　六一
二、移民實行案（大正二年一月決裁）　七一
四目　移民ニ對スル保護助成　七七
五目　移民ノ資格　八一
大目　移住地ニ於ケル施設　八三
一、吉野村　八三
二、豊田村　一〇〇

三　林田村　一〇八
七目　移民村ノ経過及現況　一一四
一　吉野村　一一四
二　豊田村　一三九
三　林田村　一五九
第二項　移民事業ニ要シタル経費　二二七
第三節　臺東廳下ニ於ケル私營移民事業　二二九
第一項　移住奬勵要領　二二九
一目　移住奬勵要領ノ沿革　二二九
二目　大正六年六月府議決定ノ移住奬勵要領　二三一
三目　大正九年十二月改正ノ移住奬勵要領　二三七
四目　大正十一年四月改正ノ移住奬勵要領　二四六
五目　現行ノ移住奬勵要領　二五三
六目　移民奬勵要領ニ對スル命令條件　二六二

第二項　台東製糖株式會社（後ニ台東開拓株式會社ニ於テ　二六七
南拓並ニ植民事業ニ承継）ノ植民事業梗概
一目　製糖事業ト開拓事業　二六七
二目　開拓事業ト移民事業　二七五
三目　政府ノ開拓移民事業助成
四目　移民ニ對スル會社ノ保護助成　二八九
五目　移民資格　二九七
六目　各移住地ニ於ケル施設　二九八
七目　各移民村ノ経過及現況　三〇三
一、朝日村　三〇三
二、鹿野村　三〇四
三、鹿寮　三〇六
四、池上村　三〇七
五、月野村　三〇八

六、大原村　三〇八
七、新開園　三〇九
八、雷公火都盞山西部　三一〇
九、宰南及馬蘭　三一〇
一〇、美和村　三一〇
一一、鹿野村咾吧咾吧　三一二
一二、富原村　三一二
一三、池上村萬朝　三一三
一四、台湾製糖株式會社並ニ台東開拓株式會社移民事業　三一三
失敗ノ原因
第三項　移民事業ニ要シタル經費　四〇一
一目　政府ノ補助金額　四〇一
一、埤圳補助金額調　四〇二
二、移民家屋補助金額調　四〇三

三、藥價其他補助金額調　四〇五
二目　會社ノ投資額　四〇六
一、台東開拓株式會社投資額調　四〇六
二、台東開拓株式會社関係地域別投資額調　四〇七
第四節　台中州下ニ於ケル官營移民　四一〇
第一項　官營移民事業概況　四一〇
一目　移住奨勵綱要　四一一
二目　年度別計畫實行案　四二八
三目　移民ニ對スル保護助成　四四七
四目　移民ノ資格　四五二
五目　移民村ノ經過及現況　四五四
六目　移住地ニ於ケル施設　四六三
第二項　移民事業ニ要シタル經費　四六五

第一章　臺湾ノ移民

臺湾ニ於ケル植民事業ノ沿革ニ就テハ

第十七世紀ノ前半和蘭人本島ニ占據セシ時代（一六〇〇―一六六一）ヲ以テ嚆矢トナスヘシ、此以前ニ於テ既ニ多少ノ日本人又ハ支那人ノ來住スルモノアリシト雖モ、何等農業上ノ開拓ニ從フモノナク、本島全土

ヲ挙ゲテ専ラ平埔蕃人ノ割據セシ処ナリキ。

十七世紀ノ初葉和蘭人此地ニ占居スルヤ和蘭東印度商会之ガ経営ノ任ニ当リ其ノ経営ノ主眼トスル商業貿易上ニ利益ヲ博センコトヲ期シ、併セテ土地ノ開拓奨励ニ意ヲ用ヒタリ。

当時和蘭人ノ主トシテ活動セシ区域ハ今ノ台南附近ノ地方ニシテ住民ハ平埔蕃其主ヲ占メ閩族ノ来住スル者未ダ多カラズ、当時ノ記録ニ徴スレハ戸数二萬五千乃至三万人口約十万内外ヲ算セシモノノ如シ。

然レトモ一度鄭氏此地ニ覇ヲ唱フルヤ(一六六一―一六八三支那民族ノ移住漸ク盛ニシテ鄭氏ハ之ガ禁遏ノ令ヲ発セシコトアリト雖モ其大

勢ハ阻止スルニ由ナク肥沃ノ原野多クハ
支那民族ノ占有スル所トナリ鄭氏七ビ清
國統治ノ時代ニ至リテ対岸閩粤族ノ移住
極メテ盛ニシテ原住蕃人ヲ山中深ク軛逐
シ遂ニ金島ヲ彼等支那民族ノ有ニ帰スルニ至レ
リ。現時ニ於ケル住民ノ多クハ福建人ニ
[illegible]人之ニ亜ク。平原沃野ノ多クハ
先著者タル福建人ノ占ムル所ニシテ廣東
人ハ山地ニ住スルモノ多シ如斯ニシテ本
島帝國ノ版圖ニ加ヘラレシ時既ニ其人口
稠密ノ程度母國ノ夫ニ等シク所謂学者ノ
栽培植民地ニシテ農業植民地ニ適セス一
見母國民移植ノ餘地ナキカ如シ然レトモ
内部ニ入リ地勢ヲ精査シ土民分布ノ状態

ヲ仔細ニ考察スル時ハ未墾ノ沃野廣濶ナルモノ尚各地ニ存在シ、移住ノ開墾ヲ待ツノ狀アルモノ必ズシモ尠少ニ非サルナリ。

第一節　改隷当初ニ於ケル私営移民事業

第一項　移民事業ノ沿革

本島領有ノ当初ニ於テ母國民移植ノ要ハ之ヲ認メザルニアラサリシモ未タ島内ノ平和秩序整ハズ諸般ノ情勢斯業ニ着手スルヲ許ササリシ故ヲ以テ何等施設

ヲ見サリシハ之止ムヲ得サルノ結果ナリト稱スヘシ然ルニ秩序回復シ漸次平和的事業緒ニツキ産業ノ勃興ヲ見ルニ及ビ總督府ハ漸ク母國農民ノ移植ヲ試ミント欲シ先ツ未開墾地開拓出願者ニ対シ内地人移植ヲ慫慂シ、或ハ積極的ニ内地移民收容ヲ命令スルコトアルヘキヲ條件トシ開墾ヲ許可スルノ方針ヲ取リタリキ

大正元年度末迄ノ移民收容條件付予約開墾許可地ヲ挙グレバ左表ノ如シ

移民收容條件付豫約開墾許可地

座落	開墾目的	許可面積	成功期限	收容移民予定数	出願人
宜蘭廳蕃地牛爭鬪	田、畑	一九六、六三九三 甲	明治四十三年十二月三十一日		濱田新八郎
宜蘭廳利澤簡堡蘇灣庄土名白米甕	田、畑	五四、七三〇〇	大正元年十二月三十一日	—	小松楠彌
小計	—	二五一、三六九三			

台中廳	東螺西堡、二林下堡深坑堡ノ内	畑	八〇五、甲二二四九	明治四十二年十二月三十一日	一	辜顯榮
〃 廳	馬芝堡鹿港街頂厝、庄、頭厝庄、海埔厝庄、福興庄、	田	二〇〇、三九六四	大正二年十二月三十一日	一	台湾産業株式会社
〃 〃	深耕堡下溪墘庄及二林下堡草湖庄、	畑	四五六、九七三九	大正五年十二月三十一日	三七	愛久澤直哉
〃 〃	東螺西堡北斗庄三六六厝、三八五、四四一、四八九、四九〇四九四	畑	一八七、四二五〇	明治四十三年十二月三十一日	三七	同人
〃 〃	東螺西堡北斗庄外二庄、深耕堡田頭庄外一庄、東螺東埔過溪仔庄外六庄	畑	一、五〇二、一〇〇〇	大正四年十二月三十一日	一	中澤彦吉
小計		一	三、一五二、一二〇二	一	一	

南坟廳	楠仔脚萬社ノ内頭社坪外六箇所及奎六社ノ内九芎林外二箇所	田、畑	七三、二一七四	大正元年十二月三十日	—	赤司初太郎
〃	捕里社堡牛相觸庄、挑米坑庄	畑	三二、七〇〇〇	〃 大年十二月三十日	—	中澤彦吉
〃	沙連下堡炭藜庄七九三番	畑	二六、一七三五	〃 四年十二月三十日	—	長澤國三郎
小計		—	四二、〇九〇九	—	—	
嘉義廳	嘉義東堡社口庄八七一四四	畑	六一、八〇四五	大正元年十二月三十日	—	眞木勝太
〃	溪洲堡新庄仔庄、湖仔内庄、大埔尾庄樹仔脚庄、蔴園庄未査定地	畑	一、三八七、二〇〇〇	同 四年十二月三十日	—	中澤彦吉
〃	打猫南堡牛斗山庄未査定地	畑	四二、〇〇〇〇	同 元年十二月三十日	—	同人

嘉義廳	布嶼堡月眉庄海豐堡東勢厝庄、牛埔頭、程海厝、路利潭、下許厝藥、牛厝、五塊藥、昔今厝、山藥、伸張犁、	畑	一、四四四、〇〇〇〇	大正七年十二月三十一日	—	中澤彦吉
〃 〃	尖山堡溪底、四湖、鹿場、下藥、外埔藥者、謝厝藩、羊稠厝、内湖大潭、食水坑、牛挽灣萬興、尖山庄、	畑	一、六九〇、九七〇〇	同九年十二月三十一日	—	小松楠彌
〃 〃	下茄苳北堡菁藥庄及鳥嶺公潭堡白沙墩庄	畑	八二、五〇〇〇	同二年十二月	—	竹一市二 外九名
〃 〃	西螺堡港後庄	畑	三六、〇五九五	同三年十二月	—	治田長次郎
〃 〃	下茄苳南堡竹仔門庄、埤仔頭庄、吻盤咽東下堡、白水溪庄、	田、畑	三二六、六四五〇	同六年三月二十八日	—	根岸昭太郎 外四名
小計		—	五、〇七一、一七九〇	—	—	

阿、緱廳	港西上里田寮庄、阿拔泉庄、加拂庄、港西中里、彭厝庄、一一二一一三、二一六、二三六、二三七、二四〇二四四、二九〇、二九六、六九九、七〇〇七〇二、三〇三、三三七	田、畑	七五五、八五四〇	大正七年十二月三十一日	一	林謙三 外二名
〃 〃	港西上里瀰力壯庄六八四、九、六二九、土庫庄九二九、九二七、一、八九二番外一箇所	畑	一五五、一一一二	同七年十二月三十一日	一	荒井泰治
〃 〃	港東中里武丁潭庄四番外六筆、昌隆庄一五番外二筆、港東下里大峒當庄一番外十六筆、港東中里武丁潭庄外一庄及港東下里大峒當庄未查定地	畑	五三一、四〇二五	同五年十二月三十一日	六五	濱村與吉
〃 〃	港西中里彭厝庄一一一、一二新園庄六四八、四、塩埔庄一七〇、五、四一四、四、七六六、二、八四五、一隘寮庄三六、五九及彭厝庄、新園庄、塩埔庄、隘寮庄未查定地	畑	四〇七、三一一六	同八年十二月三十一日	四五	同人

阿緱廳	港西上里壹洋庄 三〇九、一 三〇九、三、三〇九、四、三〇九、五 三〇九、六、三〇九、七、三〇九、八、三〇九、九、及同庄、竜肚庄、中坛庄、金爪寮庄 木査定地	田、畑	一、五一三、三五一四	大正八年十二月三十一日	一	愛久澤直哉
〃 〃	嘉禾里加祿堂庄外二庄	畑	三七二、七一六八	同七年十二月三十一日	一	安藤達二
〃 〃	德和里大樹房庄、宣化里鼻仔頭庄	畑	三五、六九九〇	同元年十二月三十一日	一	中薗昌員
〃 〃	宣化里山脚庄、綱汐庄、仁壽里虎頭山庄、咸昌里、四重溪庄、興文里車城庄、田中央庄、	畑	二、五八九、四〇〇〇	同七年十二月三十一日	一	中澤彦吉
〃 〃	港西下里頤物庄	畑	二三、四五一〇	同二年一月三十一日	一	林鞠臣 外八名
〃 〃	港西上里平川寮庄、四八六、一五〇、五一三、五一三、一、五一三、二五一三、三	畑	二六、四二六六	同元年十二月三十一日	一	荒井泰治

平定林屋

〃 〃	港西中里老埤庄、梨頭鎮庄 港東上里五溝水庄、赤山庄	畑	一、一九〇、〇〇〇〇	同九年十二月三十一日	一	中澤彦吉
〃 〃	港西上里加納埔庄、田仔庄、河坂泉庄、東振新庄、埔羌崙庄、中崙庄、武洛庄、港西中里彭厝庄、大路関庄、塩埔庄	シザル 栽培畑	三、九九七、九六三〇	同九年十二月三十一日	一	一森彦楠 外二名
〃 〃	興文里保力庄、德和里大平頂庄、楝柳林庄、護泉水庄 大樹房庄	畑	一、八四〇、〇〇〇〇	同九年十二月三十一日	一	村田一郎
〃 〃	港西上里土庫庄	畑	二三五、八二五〇	同四年一月三十一日	一	塩水港製糖株式会社
〃 〃	港西上里瓜寮庄	畑	二、二四〇〇	同二年一月三十一日	一	同社
〃 〃	楠梓仙溪東里十張犁庄	畑	一〇〇、〇〇〇〇	同二年七月十日	一八	早川竜介
小計			一三、七四〇、七五二一	一	一	

台東廳南御母南大埔	畑 牧場	一、三七九、六八八五	大正三年十二月三十一日	一	荒井泰治
〃 〃 廣御加路蘭	牧場	二、五一七、八二〇〇	同 三年十二月三十一日	一	同 人
〃 〃 廣御加走灣、大埔別庄 二筆	田	八一、八〇三七	同 三年十二月三十一日	一	同 人
小計		三、九七九、三一二二	一	一	
花蓮港廳 馬里勿及加禮院	畑 牧場	一一、五四一、八八一四	大正三年十二月三十一日	一	荒井泰治
小計	一	一一、五四一、八八一四	一	一	
總計	一	三八、一四七、七〇五一	一	一	

右之内実際移民招来移植ノ業ヲナセシ

モノハ左ノ八者ニシテ各自経営ノ概要ヲ

述フレ人次ノ如シ

一目、源成農場

愛久澤直哉ノ経営ニ係リ台中廳深耕堡

及二林下堡内ノ許可地四百五十六甲九

分七厘三毛九絲ニ之ト梭続セル民有地千五百六十九甲ヲ買收シ以テ一集團地ヲ作リ明治四十二年農場ヲ創始シ源成農場ト稱シ同年初ヨリ五月迄ニ八十六戸二百二十二人ノ内地農民ヲ招致セリ。

其ノ保護ノ状態ヲ挙クレハ

(一) 農場迄ノ旅費支給

(二) 家屋ト敷地菜園ノ無料貸与

(三) 家具農具及種子肥料ノ貸与

(四) 一定時間食費ノ貸与

(五) 右貸与金品ノ回收ハ移住ノ翌年ヨリ四箇年内ニ年賦ヲ以テ返納セシム。

(六) 衛生ニ関シテハ農場附近ニ医療所ヲ特設シ医師ヲ招聘シ診察其他衛生

ノ事ヲ掌ラシム。又病室ヲ設ケ重患者ヲ收容シ治療藥價ノ實費ヲ徴收ス。

(ハ)、教育ニ関シテハ農場ノ費用ヲ以テ移民地ニ校舎ヲ建設シ之ヲ官ニ寄附シ彰化小学校分教場トシ移民子弟ノ教育ヲ掌ラシム。

如上ノ保護アリト雖モ其成績甚ダ不良ニシテ移住ノ翌年既ニ破産ヲ来シ移民ノ戸数一時百二十三戸ノ多数ニ登リシコトアリシモ遂ニ離散セリ。

二日　辜顕栄農場

台中廳下ニ林下堡在ニ山麓農場ナル農場ヲ経営シ大仆ノ外地農民ヲ移植シ小作

ニ從事セシメタリ。此移民ハ明治四十二年中岐阜縣農民ガ本島ノ農業ニ從事セントスルノ目的ヲ以テ渡台シ各地巡厂中恰モ本農場ニ小作人ヲ要スルニ会シ彰化廳長ノ紹介ヲ以テ移住セルモノニシテ其移住地ハ源成農場ノ移住地ニ近接シ相互補益スル所アリシガ如シ。而シテ農場主ノ之ニ対スル保護ハ略ホ源成農場ニ等シク其ノ成績ノ不良ナルコト亦相等シク偶々大正四五年ノ甘蔗作好結果ヲ收メ多少ノ資金ヲ得タルニ乗シ皆分散シ去リタリ。

三目　賀田組農場

賀田金三郎ノ経営ニ係リ花蓮港廳下ニ

於ケル豫約開墾許可地ノ内吳金城一賀田村）鯉魚尾（壽村）鳳林ノ三原野ガ相接シテ一区域ヲナセルヲ以テ一農場トシ、明治三十九年中内地農民ヲ募集移住セシメ一時吳金城ニ五十三戸百六十四人、鯉魚尾ニ百七十八人及同ナ下加礼宛ニ四十三人ノ盛況ヲ見タルモ、之亦失敗ニ終リタリ。

農民保護ノ状態ハ現金ヲ給与シテ移民ヲシテ自ラ築造セシムルコト開墾地ノ十分ノ一ノ所有権ヲ小作人ニ与フルコト等多少他ニ異ナル所アルモ大体ハ前者ト相同シトス。

四目　竹一市ニ外九名ノ開墾地

移民

明治四十三年十一月竹一市ニ外九名嘉義廳下茄苳北堡菁蔡庄白鬚公潭堡白沙墩庄官有原野八十三甲五分ノ予約開墾許可ヲ得之ガ事業経営ノタメ明治四十四年一月兵庫縣人十一名ヲ招致シ白沙墩庄ニ住居セシメ開墾ニ従事セリ。然ルニ此ノ移民ハ何レモ事業家ノ親戚又ハ昵懇ノモノニテ事業者ト明確ナル契約ナク単ニ旅費ヲ支給シテ渡台セシメ食費ヲ給与シ事業成功ノ後ハ相当ノ土地ヲ分割給与スヘキ契約ニテ殆ンド共同事業ノ如ク専ラ甘蔗耕作ニ従事セシカ同年八月下旬乃至九月上旬ノ暴風雨ニヨリ開墾地ノ大部分流出

ニ多大ノ被害アリタル結果各移民人前迄
ヲ悲観シ帰國スルモノアリ、或ハ他ニ職ヲ
転スルモノアリテ現在ニ於テ居住スルモ
ノナシ

五月　台湾蚕業奨励會移民
明治四十五年三月石崎良二郎、根岸峻太
郎等ノ五名嘉義廳下苓南堡竹仔門庄外
二庄宅有林野二百八十六甲餘ノ予約開墾
許可ヲ得桑苗ヲ養成栽培シ養蠶ヲナス目
的ヲ以テ蠶業奨励會ヲ設ケ同年八月養蠶
ニ経験ヲ有スル群馬縣農民三十四戸ヲ
招致シ何レモ渡台費及家屋ヲ給シ一戸ニ
付一箇月十五圓ノ割合ヲ以テ六箇月間食

費ヲ給シ尚一戸ニ付土地三甲以上ヲ給与シ
専ラ桑ヲ栽培シ養蠶ヲナサシムル契約ナ
リキ。然レドモ開墾地ニ関シ土地業主
権問題ニ付粉争起リ、高等林野調査委員会
ノ裁決ヲ待タサレハ開墾ニ着手スル能ハ
サル境遇ニ立至リ之カ為メ事業者ハ移民
ニ土地割当ヲ為ス能ハス。故ニ移民ハ僅
カノ菜園ト少許ノ養蠶ヲナシ得ルニ過ギサ
ル如キ状態トナリ、彼等ハ為ニ本事業ノ前
途ヲ悲観シ成功ノ見込ナキヲ慮リ逃走帰
国スルモノ続出シ或ハ他ニ転職スルモノ
アリ。大正三年四月土地問題解決シ残留
者ハ同時ニ一戸三甲乃至四甲ノ土地ノ給
与ヲ受ケ専ラ栽桑養蠶ニ従事セルモ、収益

乏シク何レモ生計困難ニシテ遂ニ離散セリ。

大目　大日本製糖株式会社

臺湾工場移民

明治四十年七月蔵園開設ノ為メ嘉義廳布峡堡馬公厝庄外三庄ノ原野千九百五十七甲余ヲ無償貸付許可ヲ受ケ全部自作法ニ依リ開墾シ之ガ事業経営上労力缺乏ノ爲メ明治四十三年十一月愛媛縣外三縣ヨリ百六十八名ノ農民ヲ移シ其半数ヲ農場ニ半数ヲ工場ニ使用セシモ賃金手当等ニ付不平ヲ唱ヘ続々逃亡者ヲ生ジ契約期間タル、満三箇年ヲ無事勤続セルハ僅ニ三分

ノ一ニ足ラスシテ現在ニ於テ残存スルモノナシ。

七日　塩水港製糖招殖株式会社

手巾藁庄移民

阿緱港西七里手布藁庄百三十一甲八分二ノ四毛五絲ハ又ト吉鹿善次印ノ起業ニ係リ同人カ内地移民ヲ招致シ七戸ノ小作移民ヲナシタリシカ明治四十二年宮砂製糖株式会社ニ譲渡シ今ハ塩水港製糖ノ経営ニ属シ移民ノ現在スルモノナシ

八日　南隆農場

夏久津直哉ノ経営ニ係ルモノニシテ

阿緱廳港西上里吉祥庄龍壯庄中坛庄金瓜
藁庄ニ於ケル許可地及手巾藁庄ニ於ケル
一部民有地ヲ買收シ建設セルモノニシテ
明治四十三年深成農場ノ移民墾地ノ結果
三十四戸百五十七人ノ内地移民ヲ收容セ
リ。然レトモ移民定着ノ凡ナク漸次離散
シ大正六年九月末ニ於テハ僅ニ二戸ヲ残
スノミニシテ日常辛フシテ糊口ヲ得ルノ
ノミノ状態ナリシガ其ノ後全部離散セリ。

九目　台湾製糖株式会社後壁林
農場

後壁林地方ハ今尚住民少ナク殊ニ同製
糖所建設当時ニハ一入労働者ノ不自由ナル

ヘキヲ考慮シ内地移民ノ募集ニ著手シ明治四十一年十二月ヨリ翌年ニ月迄ニ夫婦者一七八人外ニ児女九大人獨身者一人ニ人ノ移住民到着セリ。

契約期間三ヶ年間中素行不良ノタメ解傭、病気ノ為帰国又ハ死亡逃走退去者等總計夫婦者七一名独身者二三名ヲ除キ其ノ他ハ契約期間満了後ハ全部解傭セルモ其内平素ノ成績良好ニシテ引続キ居住ノ希望ノモノ工場職工トシテ二十人農夫トシテ二十人ヲ再用セリ。

以上ノ外小数ノ内地農民ノ移植ヲ企テシモノ冀箕湖農場其ノ他ニ三ノ偖アリシト虽モ何レモ其果ヲ結フヲ得ス失敗ニ終レリ。

今此等諸記業家失敗ノ原因ヲ按スルニ、

第一、植民事業ノ営利ヲ目的トスル私人ノ経営ニ適セサル事。

台湾ノ如ク気候風土全ク母国ト異リ衛生状態亦比較的不良ナル土地ニ於テ母国農民ノ移植カ本質土金ノ営利事業トシテ甚ク困難ナルハ自明ノ理トシフヘシ。農民ヲ新植民地ニ移植セシメント欲セバ幾多ノ補助奨励ヲ要シ之ニ投スル費用モ亦巨額ニ達スルヲ普通トス。特ニ母国ト全ク異ル風土気候ニ堪ヘ暑気瘴癘ニ打克チ農民ノ保健状態ヲ維持シ農村ノ健全ナル発達ヲ得ント欲セハ特殊ノ施設ヲ要シ各種ノ豫備的事業ニ

多大ノ資本ヲ投スルノ要アルナリ。即
営利ニ急ナル私人ノ経営ニ適セサルヤ
明ナリ。

ヤニ、上述ノ私営移民事業ハ自作農民ノ
移植ニ非ス。概ネ所謂小作移民ナルモ
ノナリ。之又私営移民不成功ノ原因ナ
リトス。居住ノ安ニ於テ多ク母国ニ劣
レル此新領土ニ於テ何等地主タルノ希
望ヲ有セサルニ於テハ其永住ノ心乏シ
ク他ニ適当ナル職業ヲ得テ転セントス
ルハ自然ノ人情ナリ。加之資本者タル
事業経営者ニ対シ隷属関係ニアル移民
ハ常ニ之カ圧迫ヲ蒙リ惹テ経営者ト移
民トノ間ニ調和ヲ害シ、事業ノ発展ヲ阻

害スルニ至ル移民ノ自由職業ヲ得シト
シ転々シ遂ニ其結果ハ台中、嘉義、阿緱等
ニ於テ内地人車夫ノ増加セル実例ヲ見
ル。

更ニ移植移民ノ失敗ノ実相ヲ見ルニ
徒ラニ官ノ要求スル定数ヲ充サンカ
為移民ノ選択ニ付キ意ヲ用ヒス。

又ハ眞ノ農民ノ移植ヲ為サズシテ商ニ
合セノ下級労働者職工ヲ交ヘ其性質甚
タ温良ナラサルノ徒輩往々多数ヲ占メ
タルコトアリ。

如斯ンハ何ソ永住ノ基
礎翠固ニシテ健全ナル農村樹立ヲ期待
シ得ベケンヤ。

又移民募集ノ方法ニ付
キテハ甘言ヲ以テ之ヲ誘セタルモノア

リテ移民目的ニ到達後モ其待遇ノ方法土地ノ状況彼等ノ予期ニ合セズ彼等ヲシテ失望セシメタルノ傾向アリ。加之住居完全ナラズ、衛生ノ設備整ハス凡土教ノ襲撃ニ苦シミ其ノ状惨憺タル光景ヲ顕出セシメタルモノ少ナカラス。即チ比較的規模大ニシテ設備ノ完全セル源成農場ニ於テモ如上ノ結果ヲ見ルコト著シ。

此ノ如クニシテ貧困ニ陥レル母國移住農民ノ生活状態ハ日毎ニ惨状ヲ極メ優者タルヘキ母國人ガ却ツテ土著人ノ軽侮ヲ招キ遂ニ母國農民来住ガ本島統治上良好ナラサル結果ヲ生スルニ至レ

第二項　政府ノ移民事業ニ対スル
助成

領台当初ニテハ政府ハ毎国人ヲ移植スルモノニ対シテハ比較的低廉ニ宅有未墾地ノ払下ヲナシタルノ外特ニ保護助成ヲナサヽリキ。

第三項　移民事業ノ経過及現況

領台当初ニ於テハ既述ノ如ク官有未墾地多キヲ以テ之ガ開墾ヲ願者ニ対シ内地人移民ヲ移植セシムルコトヲ條件トシテ土地ノ払下ヲナシタルモノナルガ右企業家ハ土地ノ所有権獲得ガ主目的ニシテ移住者ノモノト考ヘタルヲ以テ

土地所有権移転ニ於テハ企業者ハ移住者ニ対シ顧ルコト少ク旦ヲ移住セシメタル農民ヲ見ルニ其ノ条件ハ殆ンド小作農民ナリシコト及其ノ移住者ノ選定ニ対シ何等考慮スルコトナカリシ為渡来者中ニハ素頂ノ概シテ不良ナルモノアリシコト尚募集ニ際シ甘言ヲ以テ之ヲ誘ヒタルニヨ

ル移住地到着後其ノ待遇土地状況等ニ大
ナル相違アリタル為失望セシコト住宅衛生、
交通等ノ諸施設不完備ナリシコト等ニヨ
リ移住後ノ成績不振ニシテ漸次離散シ現
存スルモノナシ。

第四項　移民事業ニ要シタル経費

政府ハ私設移民事業ニ対シテハ積極的
何等ノ至ラヲ支出シタルモノナキモ植民
事業者タル企業者トシテハ移民者ニ対シ
旅費ノ支給、家屋、宅地、菜園ノ無料貸
与、家具農具、種苗、肥料等ノ貸与、一
定期間ノ食費ノ貸与、教育施設、衛生

施設等ニ対シ夫々経費ヲ要シ
詳細ナル資料ナキヲ以テ経費ヲ計上スル
コト能ハズ。

第二節　花蓮港廳下ニ於ケル宮島移民事業ノ沿革

第一項　宮島移民事業ノ沿革

一目　移住適地調査

本島ノ地位ハ歐洲諸國ニ於ケル所謂植民地ニ比スレバ母國ニ對シ極メテ近接セルヲ以テ農民ノ移植上利便大カラズト加フ

ルニ気候温熱西洋ニ跨リ夏季ニ於テハ暑熱母國ヨリモ稍強ク且ツ長シト雖モ冬季ノ如キハ温暖宜シキヲ得且ツ地味肥沃ニシテ日光雨量ノ天惠之ニ加ハリ各種ノ農作物ニ適ス。

如斯地位、地味、気候、農民移植ニ適スルモノアリト雖モ茲ニ不利ナル矣人本島ノ開拓人既ニ久シキ昔時ニ於テ其端ヲ発シ、為ニ現在ニ於ケル重要ナル土地ハ概ネ既墾地ニシテ本島人ノ所有ニ帰セルコトヲ之ナリ。

其土地面積ト人口ノ比例ヲ見ルニ母國ニ比シテ遜色ナキノミナラズ、生養占據ノ小地ヲ除キ普通行政区域ノミヲ以テスル時人却ツテ人口ノ密度母國ヨリモ大

ナリトス。

之ヲ本島移民事業計画当初ノ明治四十
三年ニ於ケル農業者ト耕地トヲ比較スレ
バ

農業人口		三、一九九、四六八人
戸数		四一一、三六三戸
耕地面積		
	田	三四八、〇八〇甲
	畑	三六四、三八三甲
	計	七一三、四六三甲

農家一戸平均耕地面積 一、甲六三

以上ノ状況ナルヲ以テ移民適地ノ選択
ハ之ヲ未開墾地ノ原野山地ニ求メザルヘ
カラズ。

本島ヲ地理上ヨリ分チテ西部東部ノ二
トス。　即チ北端ニ貂角ニ発スル中央山脈
ハ本島ノ脊髄ヲナシ南端鵝鑾鼻ニ達シ本
島ヲ東西ニ部ニ区劃ス。　移民適地ノ調査
ハ此地理的区画ニ依リ後ヒ東西両部ニ就キ行
ハレ官営移民収容ニ適地ノ撰定ヲ見タリ。

一、西部台湾

西部台湾ハ東部台湾ノ太古原始的ノ趣
アルニ比シ人口稠密、田畑能ク開ケ本島ノ
大体ニ於テ資本的植民地タル所以又実ニ
此ノ地方ニアリ如此ニシテ移民収容ノ余
地少キカ如シト雖モ尚ホ国庫ヨリ野開墾ヲ
待ツモノアリ又往年清国政府時代ニ於テ

土匪剿討ノ結果其ノ黨類ノ業地中無主ト
ナリ國家ニ属セシモノ及隘勇線ノ前進ニ
依リ線内ニ包容セラレタル地ノ自然官
有地トナリシモノ其他ノ官租地ノ利用
シ得ベキモノアリ。明治四十一年度ニ
於テ其概況調査ヲナシ次表ノ地積ヲ得
タリ。

開墾適地廳別面積

（出所＝官署移民事業報告書）

廳名	農耕ニ適シ比較的起業容易ナルモノ	土地ノ改良ヲ行フニ非ザルバ農耕耕地ニ適セザルモノ	初替畑適地	美国麻畑適地	計
台北	二五〇甲	一、二八〇甲	一〇、六〇〇甲	一甲	一二、一三〇甲
宜蘭	三二一	六四五	一	一	九六六
元深坑	一〇四	五〇〇	三、五〇五	一	四、一〇九
桃園	二〇〇	六五〇	五、三二四	一	六、一七四
新竹	七〇	五六〇	五、五七七	一	六、二〇七
元苗栗	二五〇	五、三〇〇	一八、七九七	三、一六四	二七、五一一
台中	二五九	三、三六〇	六、六四六	一、五〇〇	一二、〇三五
南投	三五〇	一、五五〇	七、一二八	一、二〇〇	一〇、二二八

元斗大	二、五〇〇	一〇、三四五	九、五〇〇	三五四	一八、六九九
嘉義	五四八	一、五〇〇	五一四一	—	七、一八九
元塩水港	二九五	一、六〇三	三、〇二七	二四五	五、一七一
台南	七九〇	二、八七四	一、六八五	四、七三三	二〇、〇八二
阿猴	一、一五一	一二、六一七	五、八二一	六、九九六	二六、五八六
合計	七、三〇八	四二、七八四	八八、七五四	一八、一九三	一五七、〇九〇

備考、本調査ノ大部ハ明治四十二年十日ニ於ケル地方庁分割合併前ニ結了セシモノナルヲ以テ其庁ノ全部併合セルモノハ所属庁ニ併集揭上シ分割ニ係ル元深坑「台北宜蘭ニ分属ス」元西栗「新竹、台中ニ分属ス」元塩水港「嘉義台南ニ分属ス」元斗大「嘉義南投ニ分属ス」ノ四庁分ノ調査シタル旧区域ノマヽ揭記ス。

官租地庁別地目別面積

出所＝（官営移民事業報告書）

庁名	田	畑	養魚池	建物敷地	山林、原野、池沼、雑種地	計
台北	一八九甲	七三甲	—	四甲	七甲	二七四甲
宜蘭	一八五	一七三	—	六	—	三六五
桃園	一五	一〇	—	—	四	三一

新竹	台中	南投	嘉義	台南	阿緱	合計
一〇五	一、六二七	六四一	一、六四〇	九一三	六一〇	五、九三〇
八	五八〇	五九一	三、二四三	一、〇二四	九八〇	六、六八六
｜	一七	｜	七九七	五〇一	一九九	一、五一五
一	三〇	二六	二〇	六	二	九九
｜	五	三九	一八	一〇八	｜	一八六
一一六	二、二六一	一、二九九	五、七二〇	二、五五四	一、七九二	一四、四一七

備考、此ノ一万四千有余甲ハ其所在点散シ実際上移民収容地トシテハ不適当ナル如キモ之ヲ基礎トシテ移民地ヲ形成シ附近民有地ヲ売買又ハ交換又ル等ノ方法ヲ以テ収用スルニ於テハ適当ナル集団地ヲ得ラルヘキモノトス

西部台湾移民収容見込地総括表

(出所＝官営移民事業報告書)

廳名	箇所数	未出願地 荒断開墾地	未出願地 未墾地	出願地 荒断開墾地	出願地 未墾地	官租地 既墾地	官租地 未墾地	官租地 建物敷地	官租地 養魚地	開墾 申告地
台北	一三六	二二四甲	八〇〇甲	｜甲	｜甲	一六九甲	｜甲	｜甲	｜甲	｜甲
桃園	七	｜	七八〇	｜	｜	八	｜	｜	｜	｜
宜蘭	一〇	｜	一、五〇七	一	五七	三一二	｜	｜	｜	｜

廳名	予約賣渡地	介在其ノ他ノ民有地
墾成地	未墾地	既墾地	未墾地

計	竹中	南投	嘉義	台南	阿緱
三四四	六	一六	二七	三九	三九
六、三六一	四、八四一	六六二	四九三	六	一三五
三九六〇五	一、二一三	三、八五一	一、四八六	九、七四一	一二、四九八
一、五三一	八八	四四二	八五	四七八	一三三
二、四五五	二三二	一、七〇八	一、六〇九	六、三七九	四四三
七、三三九	三八	二、四四八	七六八	二、二七五	七三七
一、三〇四	一	一	九六	一、一四五	五五
二六	一	一	二五	一	一
二二七	一	二	一	一八六	三九
二、六一四	三	人六五	一	五四二	一、二〇四

次表ヘツヾク

計	台北	桃園	宜蘭	新竹	台中	南投	嘉義	台南	阿緱
四、一〇八	甲	一	一、一六〇	三二	二三七	四六七	二、一七四	一	七〇
年期貸渡 一、二六八	一	一	一、三四八	一	一三二	二六二	一、五七九	一	一二
三、三四七	甲	一四	一、三四八	一	一三二	二六二	一、五七九	一	一二
一〇、六〇六	甲	一八	三〇二	二九	九七三	建 一、八一三	五、六三八	二、三四四	一、三〇二
建 一、八九〇	甲	一	一	一	二二三	養魚池 一	五三	一	五八
養魚池 二二四	甲	一	一	一	二二三	養魚池 一	五三	一	五八

總括表合計

（出所リ前表同様）

廳名	固所数	耕地	未墾地	建物敷地	養魚池	計
台北	一三六甲	四一二甲	八一四甲	一甲	一甲	一、二二六甲
桃園	七	八	七八〇	一	一	七八八
宜蘭	一〇	一、七七五	二、九一三	一	一	四、六八八
新竹	六	六、二六七	一、四四五	一	一	七、七一二
台中	六四	五、六二八	五、九一五	一	二	一一、五四五
南投	一六	三、一三二	三、五〇七	一〇二	一	六、七四一
嘉義	二七	一一、六〇〇	一八、八四四	一	一	三〇、四四四
台南	三九	四、四二四	一三、二一一	一	一八六	一七、八二一
阿緱	三九	二、三九六	八、八三四	一	三九	一一、二七〇
計	三四四	三五、六四二	五六、二六三	一〇三	二二七	九二、二三五

此外尚ホ埤圳事業ノ完成ニ伴ヒ土地ノ利用増進シ河川整理ノ結果更ニ多大ノ開墾適地ヲ生ズルモノアルベシ。然リト雖モ此等ノ土地ヲ挙ゲ移民適地トシテ採用シ得ベキヤ否ヤニ就テハ更ニ慎重ナル調査ヲ要シ容易ニ論断スベカラサルヤ明ナリ。

二、東部台灣

東部台灣移住適地調査人明治四十二年ヶ二渉リ數回ノ調査ヲ行ヒ左表ノ適地ヲ得タリ

東部台灣移民收容適地調査表

（出所＝宮宮移民事業報告書）

廳名	原野名	新命名村名	田	畑	原野	山林	建物敷地	池沼	其他	合計
			甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲
花蓮港	七脚川	吉野村	｜	一、〇六六	一、〇二五	｜	｜	｜	｜	二、〇九一
	板仔	大和村	一五七	二三四	一、〇四二	｜	｜	｜	｜	一、五三三
	水尾	瑞穗村	二五	三四四	九九八	｜	｜	｜	｜	一、三、六七
	針塑	末廣村	二三	八〇	三二九	一一	四	｜	｜	四四七
	璞石閣	長良村	二九	五〇	九四〇	｜	｜	｜	｜	一、〇一九
	吳全城	賀田村	九〇	二四〇	一、〇一一	｜	五三	｜	｜	一、三九四
	鯉魚尾	豊田村	一八〇	九九〇	一、一六五	｜	一六九	｜	｜	二、五〇四
	加禮宛	平野村	｜	一、五九五	｜	｜	｜	｜	｜	一、五九五
	鳳林	林田村	四五〇	一、六一〇	一、三二五	｜	三二〇	｜	｜	三、七〇五
廳計			九五〇	六、三〇九	七、八三五	二一	五四六	｜	｜	一五、六五五

台東	新開園	池上村	三八	五七	二、二〇九	―	八	五七	―	二、三六九
	鹿寮	鹿野村	四二	一七〇	一、六三九	三〇九	一	―	―	二、一六一
	呂家	旭村	二二	九六二	一、四七六	―	一二七	―	―	二、五八七
	知本	美和村	―	九六	三三一	―	―	―	―	四二七
	大埔尾	大原村	五四	九〇〇	八六六	―	一二七	―	―	一、九四七
	加路蘭	富原村	―	―	二、五一八	―	―	―	―	二、五一八
	廳計		一五六	二、一八五	九、〇三九	三〇九	二六三	五七	―	一二、〇〇九
合計			一、一一〇	八、四九四	一六、八七四	三二〇	八〇九	五七		二七、六六四

右地域ニ対スル大要ノ説明ヲナサンニ

東部台湾ハ行政上臺東花蓮港両廳ノ管轄ニ属シ明治四十二年末ニ行政区域内ニ於テ本島人蕃人合計五万三千百四人アリ。行政区域外ニ於テモ生蕃人六万七人ヲ有スルノミナリ。

此地方ニ於ケル主要ナル平野ハ本島ノ脊梁ヲナス中央山脈ト之ト併行ヲナシテ走

ル海岸山脈トノ中間ニ位スル所謂中仙道平野ト海岸ニ沿ヒ南北ニ連ル海岸平野ノ二ニシテ前者ハ幅員西一里乃至二里延長南北四十五里ニ及ビ、後者ハ更ニ狹長ニシテ其延長南北六十里ニ達ス、而シテ移民收容上重要ナル價値ヲ有スルハ前者ナリトス。

所謂中仙道平野ハ地勢上之ヲ三部ニ大別スルコトヲ得。即チ臭南大溪流域秀姑巒溪流域及花蓮港溪流域之ナリ。臭南大溪ハ其上流ヲ新開園ノ西南方ニ至リ南流シテ数多ノ支流ヲ合シ臭南ニ至リ海ニ注グ新開園附近ヨリ下流ハ緩傾斜ヲナセル平野ニシテ本流及支流ハ共ニ水量多ク相当

新武路溪ト稱シ中央山脈ニ発源シ東流シテ

施設シナサヽ本地域ノ大部分ニ灌漑スル
ヲ得ヘク東西廣キ所ニ里ニ達シ南北十ニ
里ヲ超ユ。　季姑巒溪ハ中央山脈ヨリ発シ
新開園ノ北西方ニ至リ平野ノ間ヲ北ニ貫
流シ数多ノ支流ヲ併セ水尾ニ至リ抜仔山
ヨリ発源シ、抜仔庄ヲ貫流スル嫣蘭釣溪ト
相合シ海岸山脈ヲ横断シ東ニ流レ大港口
ニ至リ海ニ入ル本流ハ其ノ支流ト共ニ水
量豊富ニシテ灌漑ノ便多シ。　而シテ其ノ
廣袤ハ東西ニ里南北十大里ニ達ス。　花蓮
港溪ハ上流ヲ馬太鞍溪ト云ヒ中央山脈ノ
丹大山ヨリ発源シテ東流シ萬里橋溪ト合
シテ平野ニ出テ更ニ北流シテ知亜干溪、水
尖溪等ノ支流ヲ合シ花蓮港ノ南方ニ至リ

海ニ注グ。本溪城ノ北部海岸ニ三棧溪擢基利溪下流沿岸ノ平野アリ新城原野ト稱シ長南北約三里幅東西十町内外アリテ其廣袤約二千五百六十一甲ノ面積ヲ有セリ。何レモ灌漑ノ便ヲ有シ有望ナル平野ナリ。

以上ノ平野ハ中央山脈ヨリ東ル河川ノ構造セル土地ニシテ又其氾濫区域タリ。

故ニ所々砂礫ヲ混ジ土壤脊薄ナルモノアリト雖概シテ灌漑ノ便ヲ有スル豊沃ナル原野ニ屬シ農業上重要ノ價値ヲ有ス。而シテ此地古来交通ノ便ヲ缺キタルガ故ニ清國政府時代ニ於テ漢人種ノ侵入甚ダ尠ク唯僅ニ土著蕃人ノ租放ナル畑作ヲ見ルニ過ギザリシガ同政府末期ニ至リ漸次

漢人種ノ移住ヲ増加シ猥リニ無断開墾ヲ
行ヒタル結果蕃人等モ亦其農作ヲ習得シ
近時畑作ノ外水田ヲ耕作スル者アルニ至
レリ。而シテ其耕作ハ最モ粗単且ツ肥沃
ナル土地ヲ選ビ散在的ニ開墾シタルノ結
果彼等ノ耕地ハ点々各所ニ散在シ加フル
ニ往ニ天恵ニ依頼シテ施肥ノ観念ナク、輪
耕法ヲ行ヒ猥リニ耕作面積ヲ拡大シテ広
大ナル面積ヲ占有シ掠奪的農業ヲ営ミツ
ツアルニ過ギズ。而シテ尚水全ク未ダ彼
等ノ鋤犁ヲ入レザル未開墾地ノ広大ナル
アリ。適当ナル土地整理ヲ行ハバ理想的
集団地ヲ作リ以テ移民収容適当ヲ得ベシ。
即前掲ノ東部台湾ハ西部ト異リ尚ホ純然

タル移住的殖民地ナリト云フベキナリ。

三、移民収容適地ノ決定

以上移民（派者）適地調査ノ結果ニ依リ總督府ハ東部及西部ノ両地方ニ就キ長短優劣ヲ比較研究シ以テ移民収容実行地ヲ決定セリ。

西部台湾ハ移民適地九万二千二百三十五甲ヲ有シ東部台湾ノ三万二千九百七十一甲ニ比シ廣大ノ余地アリト雖モ移民事業ノ本来ノ性質ヨリ論ズル時ハ缺点少カラズ、即其両者ノ可否ヲ比較スルニ西部ハ「マラリヤ」其ノ他ノ風土病割合ニ少ク衛生状態比較的良好ナルヲト、交通機関整頓

シ市場ニ接近セルコト工業商業ノ盛ナルコト等ニ開拓ノ歴史古キ既開地方トシテ有利ナル点アリ之ニ反シテ東部人土地僻遠ニシテ「マラリヤ」等ノ風土病猖獗ヲ極メ交通不便ニシテ市場ニ遠ク海岸良港ナク物資ノ受授集散極メテ不便ナルコト等其欽点多シ。然レドモ此等ノ諸点ハ多ク経済的利益ノ優劣ニ属ス抑ム本島移民事業ノ目的タル母國農民ヲ移植シ健全贊実ナル母國農村ノ建設ヲ計リ本島人並ニ生蕃人ヲ同化シ、且ツ國防ニ資シ鞏固ナル帝國々土トナシ以テ南方発展ノ基点タラシメントスルニアリ。而シテ本島ノ領有ヲ永遠ニ意義アラシメントスルノ使命ヲ有シ早

二目前経済的利益ノ多少ヲ以テ其収容適
地ノ決定ヲナスヘキニアラサルナリ。
尚ホ更ニ西部台湾ノ母国農民収容ニ不
利ナル実ヲ挙ケレハ
(一) 西部台湾ハ全部ニ於テ前掲ノ如ク大
面積アリト雖モ之等ハ多ク各地ニ飛散
セル土地ニシテ農村建設ニ適スル集団
地ヲ得ルニ困難ナル欠点アリ。而シ
テ総督府官署ノ移民事業ハ部分的ニ非
スシテ集団的ナラサルヘカラズ。若シ
西部地方ニ於テ一大集団地ヲ得ントス
ハ民有地ヲ買収シ之ヲ母国農民ニ給与
スルヲ要ス。斯ノ如キハ土着民ニ影
響スルコト多大ニシテ却ッテ民心ノ騒

壊ヲ招キ土民ノ反感ヲ誘起シ統治上悪結果ヲ生ズルノ虞レアリ。

(二) 適地調査ノ結果得ラルル土地ハ多クノ荒蕪地ナラストスルモ土質劣等ナル平地若クハ山地ニシテ自然的社会的要素ニ於テ現耕地ニ劣レルモノ極メテ大ナリトス。

カ、ル地域ニ風土気候ニ慣レズ、而モ生活條件ニ於テ極メテ不利ナル地ニアル母国農民ヲ移植スル時ハ遂ニ土着人ニ対シ劣敗者タルノ結果ニ終ルノ恐レアリ。

由来母国民ハ新附民ニ対シ優秀ナルノ地位ヲ保有セザルヘカラズ反対ニ之カ劣者トシテ土着心ノ軽侮心ヲ生ゼシムルニ至リテハ目的顚倒ノ

結果トナルニ至ル。

(三) 西部海岸ハ人口稠密ニシテ之ヲ
母国ニ比スルニ敢テ逕色ナク寧ロ勝ル
ノ状況ナリ。此地ニ更ニ母国人ヲ入ル
ルニ於テハ原住土人トノ間ニ利害ノ衝
突ヲ見ルベク遂ニ両族競争ヲ現出シ按
壌闘争ノ惨状ヲ見ルノ虞ナシトセズ。

而シテ更ニ在来多数ノ土著人ノ為ス所
ノ母国民ハ其ノ圧迫ヲ受クルコトナキ
ヲ保セズ。

以上ノ諸点ヨリ見レバ東部台湾ハ西部
ニ比シテ移民収容ニ適スルモノト云フ
ベシ。

即チ面積両廳ニ於テ百六十四平
方里強ヲ有シ而シテ住民ハ明治四十二年

末ニ於テ僅ニ行政区域内ニ五万三千百
四人ト行政区域外ニ六万七人ノ蕃人ア
ルノミニ一平方里ノ平均数僅ニ七十人
弱ニ過ギス。且其多数ハ瞹昧ナル蕃人
ニシテ茲ニ民族ノ争闘ヲ見ズ文明ノ衝
突ヲ生スヘキノ憂ナシ。而シテ開放セ
ラレタル天然ノ沃野茫々トシテ大和民
族ノ模範農村ノ樹立ヲ待テ統督府ノ移
民事業ヲ計ルヤ正ニ此地ヲ以テセザル
ベカラズ。而シテ上ニ示セル十五人集
団地中既ニ私人ノ事業トシテ内地人招
致ヲナセルモノアリ。此等ノ地方ハ其
事業家ニ委スルヲ便トシ尤団地ヲ以
テ官営移民収容地ト決定スルニ至レリ。

東部台湾官営移民収容適地区域

面積区分表

（本庁前表ト同様）

廳別	原野名	新命名村名	将来利用見込地目							同上休閑墾地	
			田	畑	果樹園	共有地	放牧地	薪炭用雑木地	建物敷地	合計	田	畑	計
花蓮港	七腳川	吉野村	甲 一、〇六六	甲 五一四		甲 一、〇九〇	甲 一、〇九〇	甲 一、一〇九	甲 一	甲 三、一九一	甲 一	甲 一、〇六六	甲 一、〇六七
	拔子	大和村	二九九	四五五		二一八三	一三九	一	一	一、二三二	一五七	三三四	四九一
	水尾	瑞穗村	一一九	四四四		一	四二〇	一〇三	一	一、三六六	二五	三四四	三六九
	針塑	末広村	六六	二一〇		二八〇	一一四	三八	一	四四八	三三	八〇	一一〇三
臺東	璞石閣	長良村	五〇	六四		二一五	一一五	八八	一	一、一二〇	二九	五〇	七九
廳	新開園	池上村	四〇	一一九		二九〇	二一八	五二	一	三、三六〇	三八	四二	八〇
	蕊	鹿野村	五〇	一一三〇		五九〇	二一〇	一二四	一	三、一五四	四二	一六〇	二一二

東		計	特別処分区域	合計
呂宋	池村	一、〇八〇	四三六〇	六、一九〇
知本				
美和林	一八〇	一、八八三	一三、三六一	一五、八五五
	一	三、七〇六	一四、一八	五、二四
	一八〇	一、二六〇	二、六〇七	三、八六〇
	三六〇	一、三六〇	二、六〇七	三、九六〇
	一四四	八三五	一	八三五
	四五	九〇三、八〇五	一九、一五九	二九、〇三
	三九	四二八	一	四二八
	三四六一	三三六	一、〇八一	一、四一八
	一八〇	三、五八八	三、〇三七	六、九六
	三一	九六	一	九六
	九八四	三、四九四	四、一一八	七、六一四

備考 一、特別処分区域トハ現在本島人及蕃人ノ所有区域ヲ画定シタル結果ヲ収容スベキ土地ヲ謂フ

四

二目　官営移民事業ノ概況

明治四十二年度台湾総督府ハ官営移民事業ノ実施ニ着手セリ。而シテ該年度ニ於ケル繰算ハ三萬圓ニシテ専ラ本事業遂行ノ準備調査ニ充当セリ。而シテ移民事務ハ当初殖産局林務課管掌ノ事項トシテ移民適地ノ調査及内外移植民ニ関スル事例ノ調査等ニ務メ、翌明治四十三年度ニ至リ又九、又五、五圓ノ予算ヲ計上シ此事業ヲ実行スルニ及ビ同年五月勅令第二百三十號ヲ以テ、移民事務管掌ノタメ臨時職員ヲ置クノ件発布セラレ以テ移民事務委員会移民課、移民指導所等ノ機関ノ設置ニ見ルニ至レリ。

一、移民事務委員会

移民事務委員会ハ明治四十三年大月訓令第百十四号ヲ以テ設置セラル。本会ハ該規程第一條ニ示スガ如ク必要ニ應ジ随時委員長ノ召集開会スルモノニシテ、移民実施計画及移住適地整理ニ関スル方針ヲ審議決定スル機関ニシテ其組織ハ委員長一人委員十五人主事二人書記四人ヲ以テ成リ委員長ハ民政長官ヲ以テ之ニ充テ委員及主事ハ總督府高等行政官及技師ノ中ヨリ總督之ヲ任命シ書記ハ総督府判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ任命ス。又委員長ハ必要ト認メタル時ハ会議ノ事件ニ関係アル官吏ヲシテ臨時其議事ニ干与セシムコトヲ

得。

主事ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ書記ハ主事ノ命ヲ受ケテ庶務ニ從事スルヲ其職務トス。委員会ニ於テ議決シタル事項ハ台湾總督府ニ具申シ之ガ裁決ヲ得。而シテ後初メテ実施セラルヽモノトス。

（附録官管移民関係例規中移民事務委員会規程参照）

移民事務委員会ハ大正三年十一月廃止ニ至ルマデ移民事務ニ関スル主要ナル事項ハ悉ク本会ノ審議ヲ経テ実行セルモノナリ。而シテ其ノ廃止ニ至レルハ移民事業既ニ其ノ緒ニ著キ今後ノ施設多クハ過去ノ範ニ則レバ足ルノ状況ナルヲ以テ本会存置ノ要ヲ見ザルニ至リタルモノナリ。

移民事務委員会規程（明治四十三年六月訓令第百十四号）

第一條　内地移民実施計画及内地移民適地整理ニ関スル方針ヲ審議セシムル為台湾總督府ニ移民事務委員会ヲ置ク

第二條　移民事務委員会ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス。

委員長

委員十五人

第三條　委員長ハ民政長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員長ハ会務ヲ掌理シ議事ヲ整頓ス

第四條　委員ハ台湾總督府高等行政官及技師ノ内ヨリ、台湾總督之ヲ命ス。

第五條　委員長ハ委員会ニ於テ決議シタ

ル事項ヲ台湾總督ニ具申スヘシ

第六條　委員長ニ於テ仕要ト認メタルトキハ会議ノ事件ニ関係アル官吏ヲシテ臨時其ノ議事ニ関與セシムルコトヲ得

第七條　委員長事故アルトキハ上席委員之ヲ代理ス

第八條　移民事務委員会ニ主事二人書記四人ヲ置ク

第九條　主事ハ台湾總督府高等行政官又ハ技師ノ中ヨリ台湾總督之ヲ命ス

主事ハ委員長ノ指導ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十條　書記ハ台湾總督府判任官中ヨリ

委員長之ヲ命ス

書記ハ主事ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ発布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○移民事務委員会規程廃止

（大正二年十二月八日訓令第百八十号）

明治四十三年六月訓令第百十四号移民事務委員會規程ハ之ヲ廃止ス

○移民事務職員制

（明治四十三年五月勅令第二百三十号）

移民ニ関スル事務ヲ掌理セシムル為台湾総督府ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

事務官　専任一人　技師専任　一人

属、技手　専任十九人

本令ハ発布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

沿革、明治四十三年四月勅令第九十号

ヲ以テ台湾ノ移民事務ニ従事スル職員（属、三人、技手一人）設置ノ件公布、同四十三年五月、勅令第二百三十号ヲ以テ前令改正専任事務官一人、専任属技手十人トナル。

同四十四年四月勅令第百十六号ヲ以テ専任技師一人ヲ加ヘ属、技手十人ヲ二十人ニ改正。大正四年二月勅令第十七号ヲ以テ

二、移民課

移民事務ヲ林務課ノ管掌ヨリ分テ独立属、技手専任二十人ヲ十九人ニ改正。

ノ移民課ヲ設ケタル八明治四十三年五月ニシテ其分掌事務ノ範囲ヲ上グレハ左ノ如シ。

移民ニ関スル事項

移民地ノ調査及設計ニ関スル事項

而シテ殖産局事務分掌規程中移民課ノ事務ノ区分ハ左ノ如シ

(一) 移民係

イ、移民ニ関スル統計及報告ニ関スル事項

ロ、移民ノ奨励募集及監督ニ関スル事項

ハ、移民台帳ニ関スル事項

ニ、其他他係ノ主管ニ属セザル事項

(二) 調査係

イ、移民事例ノ調査ニ関スル事項

ロ、移民適地ノ調査ニ関スル事項

八、移民農村ノ区画及設計ニ関スル
事項

移民課ハ之ヲ前述ノ移民事務委員會ト
等シク各道統督府
ル補助機関ナリト雖モ前者ハ審議議決
ノ機関ニシテ後者ハ後述ノ移民指導所ト
共ニ之カ実行ノ機関ナリトス。

三　移民指導所

移民指導所ハ各移住地ニ設置セラルヽ
モノニシテ移住者ノ直接ノ保護監督指導ノ
任ニ当ル機関ナリ。

既ニ移民事務委員会
アリ又後ノ移民課ノ設ケラルヽアリテ
移民事業全般ニ亘ルノ事務ヲ掌ルト雖モ
此等ハ皆移住地ヨリ隔離セル事実上植民ノ

指導監督ノ任ヲ完フスルニ不便少カラス
加之移民ノ業タルヤ難事中ノ難事ニシテ
居住、農事、衛生、其他諸搬ノ事項ニ付(盾接)実情ニ
觸レツツ指導ヲナスノ必要切ナルモノア
リ。之移民課ニ次クニ尚ホ各移住地ニ於
テ移民指導所ナル特別機関ヲ設置セシ所
以ナリ。

移民指導所ハ明治四十三年大月訓令第百
三十五号ヲ以テ民政部殖産局附属移民指
導所規程ニ依リ設置セラレ其ノ分掌事務
ハ

(一)移民指導ニ関スル事項

(二)模範耕作ニ関スル事項

ナリトス更ニ移民指導所内部ノ執務規

程ニ付テハ附録官営移民関係例規中
移民指導所執務規程ヲ参照スベシ
大正六年度末迄ノ移民指導所名稱位置
及其設置廃止ノ年月等ヲ示セバ左ノ如シ

指導所名	位置	設置年月	廃止年月
吉野村移民指導所	花蓮港ナ蓮郷吉野村	明治四十三年二月	大正六年三月二十日
旭村移民指導所	台東ナ南郷旭村	明治四十三年二月	大正五年二月十日
豊田村移民指導所	花蓮港ナ蓮郷豊田村	大正二年四月	大正七年三月三十日
林田村移民指導所	同ナ奉郷林田村	大正三年二月	同

四、職員

移民課及移民指導所ノ移民事業実行ノ
任ニ當ル機関ノ設置セラルヽヤ当然之ニ
伴フ職員ナカルベカラズ、明治四十三年

五月勅令第二百三十号ハ移民ニ関スル事
務ヲ掌ラシムル為台湾総督府ニ臨時庁ノ
職員ヲ置クコトヲ定メラル。

事務官　専任　一人
技師　専任　一人
属
技手　一人

十九人

右ノ外若干名ノ兼務者及嘱託雇傭員ヲ
任命シ其補助ニ充テタリ

明治四十四年四月勅令第百十大号ヲ以
テ専任技師一名ヲ加ヘ大正四年二月勅令
第十七号ヲ以テ属、技手専任ヲ十九名ニ改
正セラル。

職員配置表

種別	移民課		吉野村移民指導所		豊田村移民指導所		林田村移民指導所		計		
	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任	計
事務官	一	一	一		一		一		四	一	五
技師	一	三	一		一		一		四	三	七
属	六	二	一		一		二		一〇	二	一二
技手	四	一	一		二		一		八	一	九
書記	一	一二	一		一		一		三	一三	一六
産業指導員	五	一	五		三		四		一七	一	一八
計	二二	二〇	九		一〇	一	一二	一	五二	二六	七八

（出所ヲ前表ト同ジ）

備考　一人ニシテ数箇所ニ兼務スルモノトシテ其各箇所ニ掲上セリ。

三日　移民事業実行案

民政部殖産局林務課ヲ以テ其主管トセル移民事務ハ初年即治四十二年度ニ於テハ専ラ本事業ノ調査及準備ニ従事シ

該年度ノ終リニ際シ花蓮港ノ下七獅川原野ヲ以テ第一次ノ移住地ト定メ所謂模範移民ノ收容ヲナセリ同時ニ指導所ヲ設ケ更ニ明治四十三年度ニ於テ予算ヲ増加シ移民事務委員会及移民課ヲ設置シ事業ノ実行ヲ計レリ。茲ニ於テ移民事業並最高ノ審議機関タル移民事務委員会ハ移民事業ノ実行方針ヲ審議決定シ明治四十三年十月台湾總督ノ決裁ヲ経タリ。之即チ移民実行案ナルモノニシテ斯業経営ノ根本方針ナリトス。而シテ其後数次改正ヲ加ヘ大正二年一月ニ於テ更ニ修正ヲ加ヘ其ノ決定ヲ見タリ。

今其ノ二箇ノ実行案ヲ上グレバ左ノ如

一、移民実行案（明治四十三年十月決

裁）

移民事業ハ内地農民ヲ本島ニ移植シ健

全撃実ナル母国人農村ヲ建設シ同化上国

方上将拓殖上ノ効果ヲ挙グルヲ以テ目的

トシ従来ノ経験ニ依リ明治四十四年度ヨ

リ少シク規模ヲ拡大シテ稍多数ノ農民ヲ

招来シ現実ニ斯業ノ経験ヲ積ミ更ニ歳計

ヲ稽ヘ漸ク以テ実行ノ歩ヲ進メントシ左

ノ方針ニ依リ実行セントス。

(一) 移住地

東部台湾即チ台東、花蓮港両廳下ハ明

治四十三年度ノ調査ニ依リ現ニ居住セ

ル本島人及生蕃人ノ生存上必要ナル地域ヲ画セル部分ヲ除キ其他ハ総テ之ヲ内地人移住地トシ別途処分ニ依リ漸次土地ノ整理ヲ行ヒ移民ヲ收容スルモノトス。而シテ四十四年度ニ於テハ四十三年度ニ調査設計シ移植準備ヲ調ヘタル七脚川原野及呂家原野ニ收容シ且ソ

援仔原野ニ新ニ移民指導所ヲ開設シ此所ニ少数ノ模範移民ヲ容レ次年度ノ準備ヲ整ヘントス

(二)

移民ノ種別

移民ハ官営移民ト個人自由移民ノ二種ニ分テ官営移民ハ官ニ於テ募集移住一切ヲ経営シ個人自由移民ハ各個単独

ニ渡台シ自ラ開墾ニ從事スルモノトシ
官営移民ノ移植ヲ以テ目的トシ個人自
由移民ハ其希望ニ依リ便宜官営移民地
区内ニ收容スルモノトス

(三)

設備

移民ノタメニ設備スベキモノ人移民指
導所、同附属医療所、小学校及警察官吏
派出所トス

移民指導所ハ移民区域ノ要所(七脚川、
桜仔、水尾、璞石、閣、新開園、鹿藤、呂家七箇
所ノ見込)ニ設ケ移民ノ取締及農事指
導所ニ從人シム。
医療所ハ指導所々在地ニ附設シ、移民
ノ衛生ヲ掌リ風土病予防法ヲ実行シ

移民患者ノ治療ヲ為サシム。

小学校及警察官吏派出所ハ必要ニ應ジ廳舎校舎及官舎ヲ建築シ教育実施並ニ警察官吏ノ配置ハ普通行政ノ施設ニ待ツモノトス。

(四)

土木工事

移民地ノ主要ナル幹線道路、軽便鉄道、用排水路、飲料水供給等ノ施設ヲ為ス

(五)

土地整理

移民ヲ配置スル為土地区画ヲ定メ荒起ヲナシ耕作道小用排水路等ヲ設備ス、又農村人集團制ヲ取リ一部落四十戸乃至六十戸位トシ一戸當一反歩ノ区劃ヲ定メ其内ニ通路排水路ヲ設ク。即チ一

石ノ宅地面積ハ約二百六十坪トス。

(ホ) 移民ノ補助費貸與費

イ. 官營移民ノ貸与費及補助費(一戸分

貸与費ハ家屋建築費百五十圓(總額三百圓ヲ以テ家屋ヲ建設支給シ其半額ヲ補助給与トシ半額ヲ貸与トス)

農具(耕牛及犁等)購入費六十五圓肥料購入費五十圓食費及渡航費(食料、渡航費ハ貸与セサルヲ原則トシ已ムヲ得サル者及天災ヲ見込ム)五十圓計三百十七圓ト又。但シ移民奨励ノ実績ニ依リ三、四年ノ後ハ漸次貸与費及補助費共之ヲ減額シ、又ハ無給与費移民ヲ招来スル見込ナリ

給与費、家屋建築費百五十圓（金額三百圓ノ半額）

衛生費、医療所ヨリ移住後三年間「マテ」

リヤ豫防藥ヲ無料給与シ患者入院料及藥價ヲ実費ノ二分ノ一トシ、尚四年目ヨリ実費ヲ徴収スルモノトス

ロ、個人自由移民ノ貸与費及補助費ハ

官営移民ニ対スル貸与及給費合計額以内ニ於テ適宜之ヲ定ム。

(七) 移民ノ汽車汽船賃割引

移民ノ本島渡航移住ニ対シテハ内地及本島ヲ通シ本島及沖縄県共三等運賃ニ限リ五割引トス。

(八) 土地使用料ノ免除及所有権ノ附与

移民ニ貸与スヘキ土地ハ田一甲五
分又ハ畑三甲及宅地約九歩トシ使用
期間ハ移住
料ヲ徴セサ
土地所有権ハ此使用期間内ニ土地代
金一戸分百五十円以内ノ納付ヲ終リ
タルトキ直ニ之ヲ附与ス。但シ第九

項ノ貸与費土地代金納付法ハ無利息十箇
年賦トシ移住後第四年目ヨリ徴収ス
若シ期間内ニ繰上納付シ又土地改良
上成績特ニ顕著ナルモノニハ土地代
金ノ一部ヲ免除シ直ニ所有権ヲ附与
(九) 貸与費償却
スルコトアルヘシ

移民ノ貸與費ハ無利息十箇年賦ト
シ移住後才四年目ヨリ返納セシメ才
十三年ニ至ツテ皆済スルモノトス

(ロ)

移民收容地ノ戸数

明治四十四年度ニ於テ收容スヘキ
移民ノ見込戸数ハ三百五十戸トス

(二)

調査設計

東部移民適地中官営移民地区ノ九原
原(七郷川、拔仔、水尾、針塑、璞石開、新開園
鹿藁、呂家、知本)ハ已ニ其ノ梗概調査ヲ了
セルヲ以テ之ニ依リ四十四年度及四
十五年度ニ於テ移住スヘキ地区タル
呂家、知本及拔仔三原野ノ細密調査ヲ
行ヒ土地区劃道路用排水路等ノ工事

設計ヲナシ及個人自由移民ヲ收容ス
ヘキ見込地タル別途処分地域ノ概概
調査ヲ行ヒ区画割當ヲ調製シ移民ノ
希望ニ應ジ配予スヘキ準備ヲ為スモ
ノトス
西南移民適地モ亦其ノ概概調査ヲ了
セルヲ以テ之ニ依リ更ニ賣買交換收
用等ノ実行方法ノ調査ヲ進メ土地ノ
價格ヲ審査シ本島人部落ノ移転移民
團地ノ編成等ノ方案ヲ講究シ又予約
開墾許可地ニ就キ精細ノ調査ヲ行ヒ
移民收容ノ計画ヲ立テントス
右ノ外双外事例ノ調査、農産物ノ種類
其賠償等ニ付キ充分ノ研究ヲ行フモ
ノトス。

ノトス。

(二)

土地補償

東部移民適地ノ整理ニ依リ本島人及蕃人ノ占有セル既墾地ハ之ヲ收用スルニ際シ相當ノ補償ヲ与ヘザルヘカラス　其処分方法ハ四十三年度ニ於テ其調査ヲ遂クルモ收用ハ之ヲ直ニ実行スルヲ要セザルヲ以テ先ツ移民收容地ニヨリ漸次收容ヲ行フ事トシ七脚川原野ノ薑蘭社所属及呂家原、野、知本原野ノ全部並ニ拔仔原野ノ内部ト別途処分区域中ノ一部ヲ收用シ之ニ補償金ヲ交付セントス

二、移民実行要領（大正二年一月訓令）

官営移民収容地ニ於ケル諸般設備及移民ニ対スル保護ノ標準ニ関ル

(一) 調査

移民適地ノ調査設計ハ必要ニ応ジ之ヲ行フ。

(二) 設備

移民指導所、同附属医療所、小学校、警察官吏派出所、官舎、神社、布教所、火葬場等ヲ建設ス。但シ小学校教育実施並ニ警察官吏ノ配置ハ普通行政ノ施設ニ待ツモノトス

(三) 補償費

移民事業費ヲ以テ必要アルトキハ土

地及地上物件ヲ收用シ之ニ対シ相当ノ補償金ヲ交付ス

(四) 土地整理

移民ヲ配置スル為土地区画ヲ定メ荒起ヲ為シ耕作道小排水路、基地等ヲ設備ス

(五) 土木工事

移住地ノ幹線道路、軽便鉄道用排水路敷科水供給施設野獣防禦工事等ヲ為ス、

(六) 移民ニ対スル保護

イ、汽車、汽船賃割引

内地及本島ヲ通シテ汽車汽船共三等ノ乗車船賃及携帯荷物運賃五

割引トス

ロ、移民到着当時ノ手當

移住地最近港上陸ノ日ヨリ到着

当日マデノ食料及当分消費スヘキ

蔬菜（指導所附属農場試作物ヲ充用

ス）ヲ給与ス

ハ貸与、移民ニ貸与スヘキ物件

家具一棟（建築費ノ半額）

風呂桶一箇（購入費ノ半額）

耕牛一頭

肥料初年度施用分

農具（犁、耙、籾摺、白米、搗臼等初度調

辨ニ限リニ戸又数戸一揃）

食費又渡航費（天災其他止ムヲ得ザ

ノ　ル場合ニ限ル）

二、給与　移民ニ給与スヘキ物件

家屋建築費ノ半額

風呂桶購入費ノ半額

種子、種苗、種畜、必要ニ応ジ一回又ハ

数回

ホ、医薬

移住後三年間「マラリヤ」予防薬ヲ

無料給与シ入院料、治療料、薬價、入実

費ノ二分ノ一ヲ徴収シ第四年目ヨ

リ実費ヲ徴収ス

ヘ　授業料免除

移住後三箇年間移民子弟ノ小学

校授業料ヲ免除ス

土地使用料ノ免除及業主権ノ附与

移民ニ貸與スヘキ土地ハ一戸ニ付キ耕地約三甲及宅地約一分五厘トシ使用期間ハ移住ノ年ヨリ十三年トシ使用料ヲ徴收セザルモノトス

土地業主権ハ前記使用期間内ニ土地代金ノ納付ヲ終リタルトキ直ニ之ヲ附與ス、但貸與金全部ノ償却ヲ終ルニアラザレバ土地業主権ヲ附與セズ。

土地代金ノ納付法人無利息十箇年賦トシ移住後第四年目ヨリ徴收ス

若シ期間内ニ繰上納付シ又土地改良土成績特ニ顕著ナル者ニハ土地代金ノ一部ヲ免除シ直ニ業主権ヲ附與ス

ルコトアルヘシ

(八) 貸与金償却(現品ヲ以テ貸与セル場合ニ人貸与ト同時ニ相当金額ヲ許定ニハ無利息十箇年賦トシ移住後九回目ヨリ逐次償却セシメ十三年ニ至リ皆済スルモノトス、但場合ニ依リ繰ニナスコトヲ妨ゲズ。

四目 移民ニ対スル保護助成

移住地ニ入移民指導所、医療所、警察官吏派出所、小学校、神社、布教所等ヲ設ケ各移民ニ対シテ入住家ヲ建築シテ到着移民ヲシテ直チニ之ニ入ルノ便ヲ得サシメ其他道路ヲ縦横ニ造リ土地ノ区画割ヲ為シ水道又ハ井戸ヲ設ケテ良好ナル飲料水ヲ供給

ニ手押軽便鉄道ヲ敷キ必要ニ應ジ灌漑排
水路ヲ開鑿シ耕地ノ水利ニ便ナラシメ附
近河川ノ氾濫ニ対シテハ水刎堤、制水堤等
ノ防禦工事ヲ行ヒ鉄線柵ヲ耕地ノ周囲ニ
繞ラシ野獣ノ侵入ヲ防キ農作物ヲ保護シ
又墓地火葬場ヲ設クル等夫々移住地ノ設
備ヲ為シ間接ノ保護ヲ与フル外直接各移
住者ニ対シ左ノ保護ヲ与ヘタリ

(一) 土地一戸ニ付耕地トスベキ土地
三町歩及宅地一反五畝歩ヲ割当ツ
其ノ売渡代金ハ土地ノ等級ニ依リ指
定シ平均一戸分六、〇十円ナリ

(二) 家屋一戸ニ一棟ヲ給与シ総坪凡
十六坪ニシテ坪入、床附六畳ニ間ト広

土間トニ区別ス。一其ノ建築費凡四百圓ナリ。

(三) 農具、代金ノ嵩ム主ナル大農具ハ貸渡シスルコトトシ、小農具ハ各自移住ノ際携帯セシム

(四) 耕牛 一戸ニ付一頭ヲ貸渡ス

(五) 肥料 移住ノ年ニ限リ一戸ニ付五十円以内ノモノヲ貸渡ス

(六) 尽呂桶 一戸ニ付一箇ヲ貸与ス

以上貸渡シタル土地家屋其ノ他ノモノノ代金ハ無利息十箇年賦トシ移住後第四年目ヨリ納付セシメ其ノ完済ノ上總テノ所有権ヲ与フ

補助給与ニ係ルモノハ

イ、家屋代及風呂桶代ノ半額ヲ給与ス

ロ、初年ニ限リ重ナル農作物ノ種子苗等ヲ給与ス

ハ、マラリヤ其ノ他ノ風土病ノ予防薬ハ当分ノ内無料ニテ給与ス

ニ、入院科及薬價ハ移住後三箇年間ハ実費ノ半額トス

ホ、小学校ノ授業料ハ移住後三箇年間全部免除ス

ヘ、開墾困難ナル場所ハ總督府ニテ粗開墾ヲ為シテ貸渡シ又ハ開墾費ノ一一部ヲ支弁ス。

ト、花蓮港ニ上陸シテヨリ移住地ニ到着スル迄ノ食料ヲ給与ス

外ニ移住者ニ対シテハ汽車、汽船賃ノ割引証ヲ交附ス。此証ヲ持参スル者ニハ官設鉄道、台湾航路日本郵船会社汽船、大阪商船会社汽船、西國、九州、中國、沿岸航路、関西同盟汽船賃ノ五割引シ、日本郵船会社八丈島横浜間汽船賃二割引トス又右会社ニテ経営スル神戸、兵庫門司桟橋通過料及艀賃（基隆トモ）ハ無賃トス

五目　移民ノ資格

（一）台湾ニ永住ノ意志強固ニシテ農ヲ専業トシ他業ヲ営マサル者

（二）身体強壮ニシテ他人ニ嫌忌セラルヘキ疾患ナキモノ

(三) 素行正シク嘗テ刑罰ヲ受ケタルコトナク、大酒、賭博等ノ悪癖ナキ者

(四) 既ニ一家ヲ成シ又ハ新ニ別ニ一家ヲ作リ家族ヲ引連レ移住スル者、但シ家事ノ都合ニ依リ直ニ家族全部ヲ連レ来ルコト能ハザル事情アル者ハ差当リ夫妻丈移住シ一箇年以内ニ呼寄スル

條件ニテ許スコトアルヘシ

(四) ヲ渡航旅費ノ外収穫アル迄ノ食費トシテ移住者ニ人ノ者人百五十圓以上、三人ノ者ハ二百圓以上、四人ノ者ハ二百五十圓以上、五人以上ハ一人ニ付五十圓以上ヲ現金又ハ郵便貯金ニテ持参スル者

(五) 勤倹ニシテ業務ニ精励シ且ツ毋國人タ

ルノ体面ヲ保チ得ル者

(七) 移住者ニシテ渡台シタル後他ノ事業ヲ兼営シ又ハ怠情ニシテ農事ニ精励ナラズ、或ハ毋国人タルノ品位ヲ損シ善良ナル農民トナルノ見込ナシト認メタル者

トキハ貸下ケタル土地物件ヲ引揚ケ貸下金ハ即時ニ返納セシメ移住地ヲ退去セシム

(八) 妻ヲ同伴セザル者ハ採用セズ

(九) 多数移住者ノ仲介者トナリ又ハ主宰者ト成リテ之レヲ引連レ渡台セントスル者ハ採用セズ

大目、移住地ニ於ケル施設

一、吉野村

(ハ) 交通運輸施設

移民地ニ於ケル交通ハ手押軽便鉄道及道路ノ二ニテ軽便鉄道ハ常時各部落ト最寄停車場間ニ敷設シ毎年甘蔗収穫期ニ際シ更ニ耕作地内一延長布設ス。

道路ハ停車場又ハ市街地ト指導所間及ビ各移民地部落ト指導所間ヲ連絡スヘキ幹線道路ト耕作地間ヲ縦横ニ交叉セル耕作道路トノ二種アリテ幹線道路ハ五間幅トシ移民収容ニ先立チテ之ヲ施設スルモ耕作道路ハ移民ノ労力ヲ利用シ移

民收容後ニ於テ之ヲ施工セリ。

(二)

灌漑排水施設

吉野川ハ村ノ西南約一里半初音蕃地監督所ノ西方七脚川山麓ニ広大ナルニ重ノ堰堤ヲ設ケ大堰鑿ヲ施シテ水路ヲ作リ水制及堰堤ヲ以テ水仏溪ヨリ取入レ同山脚ニ沿フテ北流シ中途ニ於テ草分耕地ノ新灌漑水路及才一支線ヲ出シ旧名薄々ノ小宍起点附近ヨリ山麓ヲ離レテ東北方ニ向ヒ宮前新耕地並ニ指導所及部落附近ノ耕地ヲ灌漑シ才一支線ハ清水ノ南方及東方耕地ノ全般並ニ草分耕地ノ一部ニ注ギ別ニ取入口ノ下流三丁ノ所ヨリ豊蘭蕃人耕地約二百甲ニ